

町の話

荒れ地が新名所に

咲き誇る蕎麦の花

—小坂子町—

白く可憐な蕎麦の花が咲き乱れ、初夏の風に揺れています。散歩などで訪れた人たちも足を止め「今が見ごろねー。清潔そうで本当に綺麗ー」などと、うっとり見入っています。目線を少し下に移すと、一面雪が降ったようにも観え、その奥には赤城山がそびえています。

1年前、小坂子町三

区と四区にまたがる約6分のこの地は、桑の木や榎木、篠などが生い茂り荒れ地と化していました。25年あまり前から耕作されない農地が続き、キジやイタチ、カラスなどの小動物の恰好の居住地ともなり、アメリカシロヒトリの大量発生という事態もありました。

地権者18軒では憂慮



の毎日でしたが平成28年12月、「耕作放棄地再生に係る補助事業」の適用を受けられないか前橋市農政部に検討を依頼し、整備事業の準備に入りしました。地権者の意向を踏まえ、関係行政での補助事業適用の検討結果、29年度の予算（国庫交付金と県・市の助成金）適用で、本事業が確定しました。

整備後の農地は群馬県農業公社に一括で貸付、担い手（株式会社赤城深山ファーム）が公社から農地を借り入れ、今年3月から蕎麦の種まきを実施。初夏の訪れとともに蒔かれた種が芽吹き、荒れ地は見事に生まれ変わり、まるで花園のようになりました。

蕎麦の花言葉は「懐かしい思い出とか幸福」などと云われます。その実には人々は舌鼓、懐かしさと幸福感を味わいます。そして、純白の花々は見事な景観を醸し出し、故郷の新名所として注目されています。

小坂子町生涯学習奨励員

山田 守

春夏秋冬

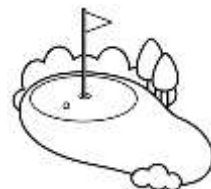
活力の泉 金丸町ゴルフ愛好会

金丸町 生涯学習奨励員 市川 秀雄（会員の一人）

1985年に地元有志の熱意と協力によって生まれた金丸町ゴルフ愛好会は、今まで33年間に渡って継続されています。

過日のコンペは110回目となり、会の記録ノートに記載されました。コンペは年に3〜4回のペースで開かれ、参加者は十数人で、メンバーの年令も60代から70代が多く、近ごろは親子で参加する方もいて頼もしい限りです。

パワーフルなグループで、時々1・5ラウンドもプレーをしますし、上手な方も多くて、芳賀地区のコンペ等でも上位入賞を経験しています。芳賀地区内でも小さな町である金丸町ですが、ゴルフ愛好会が長続きしているのは、発足当初から今日までリーダー的な存在であり、会を支えてくださっている小野里さんや北爪さんをはじめ多くの方々の協力の賜と思えます。



(一)コンペの後には反省会と表彰式を必ず行うこと。

(二)当日の成績に基づいてハッピーキャップの修正をすること。

(三)次回のコンペ開催は優勝者とブービー賞の二人が幹事となること。

この様なルールをもって、この会が運営されており、全会員が楽しく、しかも意欲的に取り組んでいます。末永く続くことを期待して止みません。



6月の主な行事予定

6月10日(日)家庭健全バレーボール大会（芳賀中体育館）

6月16日(土)親子で新じゃがが掘り体験（産直味菜の畑）

6月23日(土)じゃがいも料理を作ってみよう（芳賀公民館）